

研究テーマ

実施団体 神奈川県教育委員会 障害種の情報 肢体不自由

共に学び共に育つ体育授業の実現に向けた調査研究

実践研究のねらい

aim

昨年度、車いすを使用する生徒(以下、生徒Aという)と他の生徒と一緒に取り組む体育授業を実践した。本研究では、より多くの生徒が生徒Aと共に運動したり、車いすを使用した運動を行ったりすることにより、障害の有無に関わらず共に学ぶことの意義や価値を実感し、「共生」態度を育むことができる体育授業の実現を目指す。

授業づくりの考え方

thinking

障害の有無にかかわらず誰もが一緒に運動に取り組むことができるよう、以下のような学習活動を、学習のねらいや内容に合わせて配置して実践することとした。

- ①ほとんど変更を加えなくても誰もが参加できる活動
- ②みんなが同じ活動をするためにやり方を工夫する活動
- ③個別の課題に応じて練習方法やルールを選択して行う活動

指導・支援の工夫

devise

単元

3年生：球技：ネット型(テニス)

誰もが一緒にできるテニスの授業

テニスは、ネットを挟んでラケットを使ってボールを打ち合い、ボールを相手コート内に落とし、ツーバウンドするまでに返球できれば得点となる競技。そのため、ラケットやボール操作が難しく、移動範囲が広いコートでは、特に運動が苦手な生徒や車いすを使用する生徒などにとっては、テニスの特性を味わうことが難しくなってしまう。そこで、用具やルール、コートの広さなどを調整することで、誰もが攻防する楽しさを味わえる単元を計画した。

ほとんど変更を加えることがなく誰もが参加

車いすの特性を理解するために全員が車いすに乗ったり、複数の用具を試したりして、車いすやラケットの操作、ボールの弾み方を理解する活動を取り入れた。

誰もが同じ活動をするために行為を選択

「20回連続ラリー達成」のために、用具を選択できるようにした。
5時間目以降は、「試しのゲーム」「簡易ゲーム」等、活動の行為を変更し、全員が同じ活動ができるように、コートの大きさや参加の人数など、微調整を行った。

個々やチームの能力に応じて活動場所や方法を変更

3・4時間目は、「ボールを打つ」課題に応じて、個々の能力に応じて、活動方法を選択できるようにした。
7時間目以降は、チームの課題練習や作戦に応じた練習を選び、試しのゲームや簡易ゲームに向けた練習をチームで選択できるようにした。

時間	1	2	3	4	5	6
	ねらいに応じて、個々が用具や行い方を選択してテニスを楽しもう					
0 10	オリエンテーション 健康観察	健康観察、本時の学習内容の確認、準備運動、自己の課題確認				
学 習 過 程	活動1 車いすの特性理解	活動1 ペアラリー 	活動1 個々の課題練習① ストローク練習(1本打ち) ボールを打つには、自分は、どの方法が打ちやすいか活動方法を選ぼう！ 	活動1 試しのゲーム① ハンドテニス ハンドテニスの行い方を選択 2対2：車いすの使用時は、コートの大きさを変更 2対3：車いすの使用時は、人数を変更 3対3：対戦相手と同じ条件 	攻防を味わうために 難しい用具は使わず 手でゲームに挑戦！ 	
		活動2 ペアラリー 20回連続	ボールを打つ方法を選択  ① 自分でボールを落とす ② 真下にボールを弾ませてもらう  ③ 斜め前からバウンドのボールを投げてもらう 	活動2 試しのゲーム② キャッチ&パウンド ストローク練習 ボールを打つ方法を選択 	ボールの受け方を選択 ラケットに当てる 体や車いすに当てる 	
	活動2 ペアラリー	個々に応じて用具を選択  ラケット ボール	ラケット操作のやり易さは一人ひとり違うから、用具は選んで使ってね！ 整理運動、健康観察、本時の振り返り(学習カード記入) 次時の確認			
40	ボールを打ち返すのは難しいよね〜。 ラケット、体や車いすに当てたらOKにしよう！ 					

時間	7	8	9	10	11	12
	チームで攻防を楽しむための方法を考え、ゲームを楽しもう					
0 10	健康観察、本時の学習内容の確認、準備運動、チームの課題確認					
学 習 過 程	活動1 チームの課題練習① チームの課題に応じて用具やルールなどを選んで実践  どんなルールなら、みんなが楽しめるかな？ チームごとにルールが違っていいよ！		活動1 チームの課題練習②  テニスラケットを2つ持てばいいんじゃない？ 			
30	活動2 試しのゲーム② 3対3 のゲーム チームで用具やルールなどを変更して、ゲームを実践  ラケット二つ使ってもいい？ あと、車いすの場合は、キャッチありで、パウンドの回数も2回までにしてほしいな。		活動2 簡易ゲーム① 相手に応じて用具やルールなどを変更		活動2 簡易ゲーム② 戦術に応じて用具やルールなどを変更  対戦相手やコートの状況によって、ルールや用具などの変更が必要だね！ 	
40	ゲームの振り返り 		「運動あそびの楽しさ」 「活」チンスラック、ボールの準備、1人1人の参加人数、ルール、コート			

※ 本表は生徒の学習活動を主として掲載しています。
単元の目標、指導と評価の計画、評価規準等については、研究報告に掲載しています。

活動概要及び工夫点

①ほとんど変更を加えなくても誰もが参加できる活動

全員が順番に競技用車いすに乗り、車いすに乗っていない相手と一緒に運動することで、車いすに乗って運動するときの状況や、車いすに乗っているときはどのように関わってほしいのかを体験的に理解する活動を取り入れた。

②みんなが同じ活動をするために行い方を工夫する活動

全員がより多くラリーを続けることができるようにするために、使いやすい用具を試したり、易しくなるようにルールを変更したり、コートの大さを調整して、障害の有無にかかわらず同じコートで一緒に練習やゲームを行った。

③個別の課題に応じて練習方法やルールを選択して行う活動

障害の有無にかかわらず、いろいろなチームとゲームをして、多くの生徒が関わり合うことができるように、個別の課題を解決する練習方法をチームで選択し、ゲームの度に対戦チームとルールを相談して決めるようにした。



◀全員が順番に車いすに乗って操作をしたり、乗っていない相手とボールを投げ合ったり、ラケットで打ち合ったりした

▶誰もがより多くラリーを続けるために、自己に適した違うラケットやボール、工夫したルールを試した



いろいろな用具やルールの工夫



◀打つ練習では、打つ位置や、打ち始めの球出しの仕方を自己の課題に応じて選択することで、チームの仲間と一緒に練習に取り組んだ

▶仲間の個別の課題を踏まえて、どちらのチームも楽しくゲームができるように、対戦チームと人数やコートの大さき、ボールの判定の仕方などルールを相談して決めた



個別課題に応じたルールの選択

成果と課題

results & tasks

成果

- ・生徒の振り返りから、本単元を通して車いすを使用する他者と共に運動をする時の配慮や工夫について気付く活動につながっていた。また生徒Aの振り返りから、みんなで楽しむことができる方法を考えながら活動していたことがわかった。
- ・教師のアンケートから、生徒だけでなく、障害の有無にかかわらず、共に学ぶことができる授業づくりに対する教師の理解がより深まった様子も見られた。

課題

- ・物の見え方や身体操作など、障害の特性や症状によって生じる困難さは、一人一人異なることから、教師は生徒の個別の状況に応じた指導や支援の工夫を検討する必要がある。
- ・共に学ぶ体育授業を実現するためには、教師だけでなく、生徒の理解も重要であるので、「共生」の態度を育む体育授業の在り方や実践等について研究が必要である。